

社会事業家 Michio Suzuki

波風を乗り越えて人生を築く

リオに社会文化総合センターを設立し、都市周縁住民にコンピュータ等の教育事業を行う。元誘拐強盗犯。14歳からドラッグや恐喝を続け33歳のときに逮捕されて服役、その間に教育を受け心を入れ換え社会福祉プロジェクトを学ぶ。出所後、かつて誘拐したことのある企業家に正式に雇われたという、その強烈な経験をもとに、職や教育に恵まれない人々にチャンスを作る社会活動にまい進している。人はどのように学び、どのように生きるべきかをテレビなどで語っているが、その言葉には説得力がある。



自らの特異な体験が社会の底辺にいる人々の共感を呼んでいる。

<http://www.iee-umachance.org.br/>

森林管理調査エンジニア Michio Suzuki

アマゾン奥地の住民にも持続的な生活を

1952年パラナ州生まれの日系二世。国立アマゾン研究所をベースに、世界最大の淡水魚ピラルクー（体長約1.5メートル）の乱獲を制御し、それを管理する指導を行い、採集経済に頼る奥地の川岸住民に持続可能な産業をもたらすプロジェクトを草案、運営している。7年かけて年間30トン確保できるようになった。また、木材の価値を住民に教えながら、森林の倒木や木材を採ったあとの廃材を利用し、木工製品として価値を生ませる試みにも挑戦中。アマゾン森林が人間にとってどんな役割をするかを研究している。



「自然に対するの畏怖より法を守るための政治力が勝ってはダメです」

<http://www.inpa.gov.br/>

生物学者 Michio Suzuki

グリーン経済が世界の危機を救う。

ブラジル北東部ペルナンブコ州の海岸山脈地区に位置するチャールズ・ダーウィン・エコロジーセンターで、地域の動物相・植物相を大学や研究所とともに調査する。海岸山脈はもともアマゾンに匹敵する豊かな動物植物相を持つが、国内のほとんどが破壊されてしまった。ロベルトは独自のテクニックを開発し、ゴールドンライオンタマリンをはじめとする絶滅の危機に瀕する動物保護・繁殖に力を注ぐ。豊かな自然を教育材料に、サイエンス・ツーリズムの名前で環境意識の啓発に努めている。



60ヘクタールの敷地内で142種の鳥類、49種の哺乳類が確認されている。

<http://www.rbma.org.br/>

住居環境整備NGO運営者 Michio Suzuki

家屋建築から経済活動まで

低所得者層の家族が、マイホームを建てたり、職業的な向上を図ったり、コミュニティの中で人間としての責任を追究しながら環境づくりに努める。人間教育を含めた居住プロジェクトAcao Moradiaを主宰する。文化教育、食物栄養、コミュニティの互助的産業振興を柱に、総合的な視点から共同体としての活動を支え、地域市民の自信や自尊心を育てる。ブラジル中部ミナス州で家屋建築と並行して17のプロジェクトを推進している。現在320家族1200人が参加し、自らの活動でその恩恵が受けられる形になっている。



建物と同時に生きることへの自信も打ち立てる

<http://www.acaomoradia.org.br/>

ハーバード大学教授 Michio Suzuki

持続的であるためにビジネスとなる企業に

コンサルタント、思想家、作家。1980年代に都市開発および都市生活における諸問題解決を目的とした市民のためのテクノロジー相談センター（ITC）を立ち上げた。のちに未来の可能性を視野に入れ、マーケティング要素を取り入れた収入を伴う方法を開拓する。また利益をあげる企業や企業のエグゼクティブを啓蒙、教育することで、効率よく町の開発を進めたり社会貢献につながるよう導いている。大企業とその対極にある途上コミュニティの両方がコンサルタント業務におけるクライアント。



コンサルタントとしての仕事は、未来を見据えたビジネス展開を助けること。

<http://ricardoneves.com.br/>

インディオ文化普及NGO主宰 Michio Suzuki

奥深い自然の知恵を現代に

ブラジル先住民シャヴァンテ族。先住民全体の伝統・文化の保護・普及を目的としたNGO、IDETIを主宰する。1967年マット・グロソ州のインディオ保護区で生まれる。部族の長老たちの方針により、伝統文化やアイデンティティを守る方策の一環として、白人社会で義務教育を受け、シャヴァンテ族の通訳として常に白人社会との間に立ち、先住民問題の先端に触れる。保護区の衛生環境管理を行うと同時に、ブラジル政府のインディオ保護局と連携しながら、文明社会に広くインディオ文化の理解を求める活動を行う。



「森、動物、天文、薬草、川などインディオのもつ知恵は文明社会の頭では理解できません」

<http://www.ideti.org.br/>

若者リーダー育成プログラム「武器を持たない戦士」では各地から集まった若者を、地元のコミュニティ(都市の隔離された貧民窟や貧しい漁村など)に送り込み、住民にとってどんな文化活動や社会活動が求められ自分たちが何ができるのかを徹底的に探究する。



「世の中を変えるのは共同作業、今すぐ始めよう」とEzgi Galvão氏。

NGOエロス(絆)創設者 Michio Suzuki

コミュニティのエネルギーを開拓する

都市計画専門の建築家を集めたNGOで、改革を成功させたり、それを長続きさせるには、コミュニティの中からの視点でなければならない、という信念から、行政などに頼らず、住民自らの力を引き出し自信をつけていく方法を推進している。コミュニティにとって何が望まれる環境なのかを、オアシスというゲームソフトを利用しながら試行錯誤し、未来をデザインしたり、ブラジル各地から若者を集めて社会参加意識や共同作業の大切さを説く

30日間のリーダー育成プログラム「武器を持たない戦士」など、ユニークな教育方法を編み出している。ここで学んだ未来のリーダーたちは、チームワークや協力的体制というスピリットとテクニックを各コミュニティへ持ち帰り、カンフル剤となるべく習ったことを実践する。時間をかけたトレーニングは、「小さなツボを押さえて大きな結果を呼ぶ“社会の鍼治療”なのです」とエジガールは言う。

□□□□□□□□1□□□□□□

<http://www.institutoelosbr.org.br/>

市民銀行パルマ運営 Michio Suzuki

地域独自の通貨「パルマス」で経済活動の仲間入り

ブラジルにおける市民銀行の草分けパルマ銀行の総合コーディネーター。共同体が独自に構築する地域経済システムを通じて、所得や雇用を創出するプログラムを実践する。貧困層の多いブラジル北東部セアラ州のファヴェーラ(スラム)地区パルメイラは人口3万。電気も上下水道も学校もなかったが、1981年の住民協会設置から始まり、地域住民が協力し合って自身の手で環境を整備するようになった。生産・販売・サービスなど、

相互作業によりコミュニティ全体の生活向上を図る。コミュニティ独自の通貨を導入し、購買力、販売力を少しずつ養い、経済社会からはみだしていた人々を経済活動に引き入れた。パルマス銀行は少額の貸付を行い、事業開始への便宜を図る。地道な努力でコミュニティ内での自給自足をほぼ満たし、犯罪率も下がった。銀行設立から12年、この例を学ぼうと他地域からの訪問客が増え、観光施設を整備している。

<http://www.bancopalmas.org.br/>



洋裁、小売業、サービス業などの職業訓練プロジェクトも同時に進行している。



コミュニティ内だけで流通する通貨「パルマ」。地域内ではパルマ経済をより活発にするため、パルマで買い物をするのが多い。パルマ銀行専用のクレジットカードや女性専用の貸付、家屋リフォームローン、農業ローンなど低金利の便宜がある。